



# 加藤家・細川家ゆかりの武器と武具



熊本城  
(2016年春撮影)

**講師：熊本県立美術館 参事(学芸員) 才藤 あずさ氏**

## 加藤家

### 加藤家の武器と武具

加藤家伝来の大名道具は散在

- ①加藤清正/その子女らの菩提寺：本妙寺(熊本市/清正菩提寺)、法華寺(岐阜高山市/加藤光広菩提寺)、報恩寺(和歌山市/瑠林院菩提寺)
- ②紀州徳川家伝来品：瑠林院(清正の嫡子)が徳川頼宣に嫁した際に持参の武器等道具類 東京国立博物館/名古屋市博物館ほか

### 加藤家について

永禄5年(1562年)清正誕生(尾張愛知郡中村)。母の血縁を通じ秀吉に仕え、天正16年、肥後北半国の大名に抜擢(19.5万石)、関ヶ原合戦後、小西行長旧領を加増(54万石)。慶長16年(1611年)病没。清正没後、次男忠弘が肥後藩主になるが、内紛や謀害事件などのため、加藤家は改易処分となる。

関ヶ原合戦図屏風  
(大塚城天守御所蔵)

講義を聴く受講生のみなさん

加藤清正像  
(熊本城行幸儀付込)

**【二系城会見のみに清正が所持した短刀】**  
 <銘 備州長船祐定作本妙寺蔵>

**清正と同田貞**  
 <銘 九州肥後同田貞藤原正信 桃山時代 本妙寺蔵>

**【熊本城の構え刀】**  
 <銘 九州肥後同田貞又八 熊本博物館蔵>

本妙寺石段上より熊本城を望む

**加藤清正所用の甲冑**  
 (当世具足) 戦国時代に登場した甲冑形式で、肥後藩時代に完成した現代型(当世の具足)。白檀塗蛇の目紋時輪 伝具足 桃山時代(本妙寺所蔵)

※当世=今風の、現代風の具足=すべて纏った

**【紀州徳川家伝来、清正ゆかりの木刀】**  
 <名古屋市博物館蔵>

**【伝清正所用の大小鐔】**  
 (顔面目丈大小鐔 銘 信家 個人蔵)

本妙寺：加藤清正の菩提寺。境内内にトレードマークの片巻を持つ清正像が立つ。

※片巻は清正所用の十文字巻の片巻の縁を短くしたような形で朝鮮の役で成徳治に使用したとの逸話がある。福徳院が紀州徳川頼宣に嫁く時持参。(東京国立博物館所蔵)

## 細川家

### 細川家の武器と武具

細川家伝来の大名道具の所在  
 ・凡そ公益財団法人永青文庫に纏まって伝わる

※永青文庫：細川建立(第16代当主)が設立(昭和25年) 細川家下屋敷跡(東京都文京区白台)に伝来の美術品や古文書などを所蔵

### 関ヶ原合戦で着用した細川忠興の甲冑

**かぶと 兜**  
 特徴：額だけを覆う小型のもの。鉄製で表は朝地、裏は黒漆塗。

**どう 胴**  
 特徴：前胸/後胸に分かれ二枚割形式。鉄の板札を編織で組み織りつなぐ(織掛草摺の縦二段の縞のピロッド包みとする)

**せきあて 腰当**  
 特徴：細長い鉄板を縦に並べ織でつなぐ(織掛草摺の縦二段の縞のピロッド包みとする)

熊本県指定重要文化財  
 黒漆威威横切二枚胴具足  
 (永青文庫蔵 熊本県立美術館寄託)

細川忠興像  
(永青文庫蔵)

### 細川家について

細川忠興(三斎)が永禄6年(1563年)細川藤季(幽斎)の長男として誕生。織田信長のもとで頭角をあらわし、信長没後は秀吉の天下統一に尽力。関ヶ原合戦で東軍に属し戦功により豊前一国と豊後のうち二郡(34万石)を付与される。忠興の後を継いだ忠利が、加藤家改易を受けて(寛永9年)に肥後熊本藩54万石を与えられ、以後幕末まで237年統治。現在、第18代当主細川護国(元内閣総理大臣)から第19代護光まで続いている。

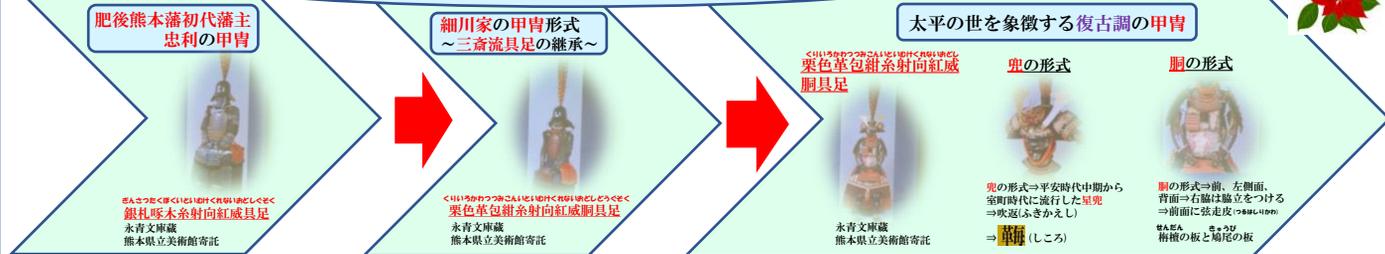
### 細川忠興の世界

忠興が信長から拝領した脇差  
 (銘 運天有敢莫退 晴思劍)  
 (運天あり、退てはくこと莫し)  
 高田美術館蔵

忠興ゆかりの細川名家宝  
 宗町時代中期 出水神社蔵  
 熊本県立美術館寄託

細川三斎(忠興)と肥後拵  
 江戸時代前期 永青文庫蔵

## 細川家の甲冑の継承/流れ



**細川三斎(忠興)と肥後金工**

- 林派** 初代、林又七。父は清正に仕えた鉄鍛鍛冶で加藤家改易後、細川家に抱えられ、三斎となる。
- 平田派** 初代、平田彦三。小倉時代から三斎に仕え、細川家改易後入藩後、三斎に従って八代に移住。
- 西垣派** 初代、西垣勘四郎。平田彦三の門人で、三斎に従って八代に移住。
- 志水派** 初代、志水仁兵衛。平田彦三の甥で、三斎に従って八代に移住。

**林又七作の火鋸銃**  
 九龍紋書金銀火鋸銃  
 銘 紀州住林清三郎重吉作  
 永青文庫蔵

**平田彦三作の装剣金具**  
 銘 平田彦三作  
 <赤銅製長輪毛拵形太刀鍔>  
 江戸時代前期 個人蔵

**西垣勘四郎の優美な透鏡**  
 銘 西垣勘四郎  
 <唐松透鏡>  
 個人蔵

**西垣派二代、西垣永久の傑作**  
 銘 西垣永久  
 <唐松透鏡>  
 個人蔵

**黒色の作家、志水仁兵衛の代表作**  
 熊本県指定重要文化財 <茶室圓扇>  
 個人蔵

熊本城を築き、当時の町並みの基礎をつくった清正公(加藤清正公)さんの加藤家。その後、肥後熊本藩主となって幕末、明治維新を経て現代へと続く細川家。今回は、なかなか触れることの少ない両家の武器・武具が紹介され、みなさんにとっても貴重な時間だったと思います。ご協力有難うございました。  
 (くまもと県民カレッジ広報ボランティア HK作成)